

NPO食支援ネットワーク・長崎嚥下リハビリテーション研究会

第9回

摂食嚥下コーディネーター 資格認定試験問題

平成29年(2017) 3月12日(日)

試験時間 10:00～12:00

会場: 共済病院8F講堂

問題 A

問 1. 老化に伴う口腔機能の変化で適切なものを選びなさい

1. 刺激唾液の増加
2. 咀嚼時間の短縮
3. 味覚閾値の低下
4. 最大咬合力の低下
5. 喉頭侵入頻度の減少

問 2. 間違っているものを選びなさい

1. 「ロコモ」は「骨＋関節＋筋肉」の連動としての運動能力の低下を指す
2. 「サルコペニア」は摂食嚥下障害と関連する
3. 「オーラル・フレイル」は、ロコモやサルコペニアと関連する
4. 「フレイル」は不可逆的である
5. 「サルコペニア」は主に「筋力」の低下を指す

問 3. 出された食事の左半分しか食べない患者の症状をなんという？

1. 右片麻痺
2. 右半側空間無視
3. 右側運動失調
4. 右同名性半盲
5. 右側パーキンソンニズム

問 4. 食欲低下をきたしている未治療のアルツハイマー型認知症患者に使用する治療薬の中で、消化器副作用が比較的低いので推奨される薬剤はどれか？

1. ドネペジル(商品名アリセプトほか)
2. NMDA受容体拮抗薬(商品名メマリー)
3. リバスタチグミン貼付剤(商品名イクセロン・パッチ、リバスタッチ・パッチ)
4. 抗精神病薬(商品名セロクエルほか)
5. ガランタミン(商品名レミニール)

問 5. 唾液の作用に関係ないものはどれか。

1. 菌の抗脱灰
2. 粘膜の湿潤
3. 食物の嚥下
4. 食物の消化
5. 粘膜の角化

問題 A

問 6. 正しい組み合わせを選びなさい

- a. 成人の1日の唾液分泌量は約300mlである
- b. 全唾液の約60%が舌下腺から分泌される
- c. 耳下腺管は咬筋の内側を通過して臼歯部に開口する
- d. 唾石は耳下腺より顎下腺に多くできる
- e. 唾液分泌量の減少はう蝕の原因となる

1. a, b
2. a, e
3. b, c
4. c, d
5. d, e

問 7. 摂食嚥下リハビリテーションに関わる専門職の働きについて、誤っているものを選びなさい

1. 摂食嚥下リハビリテーションに関わる各専門職はお互いの専門性を尊重し、協働することが重要である
2. 看護師は医師が作成した嚥下訓練計画書に従って訓練を実施することが役割である
3. 摂食嚥下リハビリテーションのチームリーダーは必ずしも医師とは限らない
4. 患者の入院(入所)している施設以外の専門職も嚥下チームとなり得る
5. 食事へのアプローチはその人の好みやなど食習慣を知ることも重要な援助となる

問 8. 筋と運動神経支配との組み合わせで誤っているものを選びなさい

1. 胸鎖乳突筋----副神経
2. 側頭筋----三叉神経
3. 頬筋----顔面神経
4. 舌筋----舌咽神経
5. 輪状咽頭筋----迷走神経

問 9. パルスオキシメーターによる経皮的動脈血酸素飽和度SpO₂の測定に適した部位を2つ選びなさい

1. 背部
2. 上腕
3. 指先
4. 耳たぶ
5. 大腿部

問題 A

問 10. 摂食嚥下障害の栄養管理上のリスクについて、間違っているものを選びなさい

1. 誤嚥
2. 食べる楽しみの喪失
3. ADLの向上
4. 脱水
5. 低栄養

問 11. 正しいものを選びなさい

1. 栄養障害とは低栄養のみを指す
2. 低栄養だと脳卒中の嚥下障害から回復しづらい
3. 摂食嚥下障害者は排便の調整は特に必要ない
4. 経管栄養患者は強制栄養なのでモニタリングはしなくよい
5. 経口摂取が難しい場合はすぐに静脈栄養に切り替える

問 12. 通常体重50kgだったA子さんは、食事が入らなくなり1ヵ月で5kg体重が減少した。
A子さんの体重減少率は？

1. 5%
2. 10%
3. 15%
4. 20%
5. 25%

問 13. 食事が困難な方へのアプローチについて誤っているものを選びなさい

1. 味覚を刺激することは食事への興味を引き出す一助となる
2. 脱感作は口、頬、肩、手のひらの順で顔の中心から行うと良い
3. 口腔顔面失行がある場合、「口を開けてください」という声掛けが逆効果となる
4. 幻覚がある場合は幻覚の内容を否定しない。
5. 内服薬が摂食嚥下障害を引き起こす場合もある

問題 B

- 問 1. 誤嚥性肺炎について誤っているものを1つ選びなさい
1. 誤嚥性肺炎は摂食・嚥下障害がないと起こらない
 2. 誤嚥性肺炎が起こる理由として口腔・咽頭内容物による誤嚥がある
 3. 誤嚥性肺炎が起こる理由として胃逆流物による誤嚥がある
 4. 70歳以上の肺炎の多くが誤嚥性肺炎である
 5. 誤嚥したら必ず誤嚥性肺炎になるとは限らない
- 問 2. 摂食・嚥下に最も影響の少ない徴候を選びなさい
1. 運動失語
 2. 観念失行
 3. 半側空間無視
 4. 肢節運動失行
 5. 仮性球麻痺
- 問 3. 脳卒中急性期の嚥下障害について正しいものを選びなさい
1. 初回発作であっても認められる
 2. 反復唾液嚥下テストの結果によって飲水を許可する
 3. 飲水には吸飲み容器を用いる
 4. 食物は定温のものが適している
 5. 頸部伸展位をとらせる
- 問 4. 嚥下障害が見られないのはどれか選びなさい
1. 軟口蓋麻痺
 2. 重症筋無力症
 3. 下咽頭ガン
 4. 食道異物
 5. 地図状舌
- 問 5. 脳卒中急性期の摂食・嚥下に最も影響の少ないものを選びなさい
1. 意識障害
 2. 肺炎
 3. 認知機能障害
 4. 歩行障害
 5. 右片麻痺

問題 B

- 問 6. 最初に頻尿や便秘などの自律神経障害が出現し、次第に軽い物忘れ・幻視・被害妄想、進行すると歩行障害・嚥下障害などが出現する疾患は下記のどれか？
1. 筋萎縮性側索硬化症
 2. アルツハイマー型認知症
 3. レビー小体型認知症
 4. 多系統萎縮症
 5. 前頭側頭葉変性症
- 問 7. これまでの研究で、アルツハイマー型認知症の発症を促進する病態が知られているが、現時点では関係性が低いと思われるものはどれか？
1. 脳卒中
 2. 糖尿病
 3. 肥満
 4. 胃がん
 5. 高血圧
- 問 8. 正しい組み合わせを選びなさい
- a. 反回神経障害……嗄声
 - b. 舌下神経障害……舌偏位
 - c. 舌咽神経障害……舌萎縮
 - d. 三叉神経障害……味覚脱失
 - e. 顔面神経障害……閉眼困難
1. a, b, c
 2. a, b, e
 3. a, d, e
 4. b, c, d
 5. c, d, e
- 問 9. 組み合わせとして正しくないものを選びなさい
1. 延髄梗塞 — 球麻痺
 2. 大脳基底核 — 運動失調
 3. 内包 — 片麻痺
 4. 橋梗塞 — 交代性片麻痺
 5. 多発性脳梗塞 — 仮性球麻痺

問題 B

問 10. アルツハイマー型認知症で、最も高度になってから出てくる症状を選びなさい

1. 物忘れ
2. 徘徊
3. 嚥下障害
4. 盗られ妄想
5. 嗅覚識別能低下

問 11. 前頭前野/眼窩面の機能が低下した時の症状で頻度が一番低いのはどれか？

1. 意味性失語
2. 暴言・暴力
3. 過食
4. 万引き
5. 憐憫(レンビン)の情の欠如

問 12. 高齢者の脱水の症状として、誤っているものを選びなさい

1. 尿量・唾液分泌量の減少
2. 記憶障害・せん妄
3. 食欲低下
4. 微熱
5. 血症ナトリウムイオン濃度の低下

問題 C

問 1. 嚥下運動における舌の機能を説明する以下の文章をよく読んで、準備期(咀嚼期)の嚥下運動とは直接には関係があるものはどれかを選びなさい

- a 形成された食塊を咽頭に送り込む
- b 口腔に取り込まれる食物の性状を確認する
- c 嚥下反射を誘発する
- d 咀嚼された食塊を口腔内で唾液と混和する
- e 捕食された食物を臼歯の上に運び、保持する

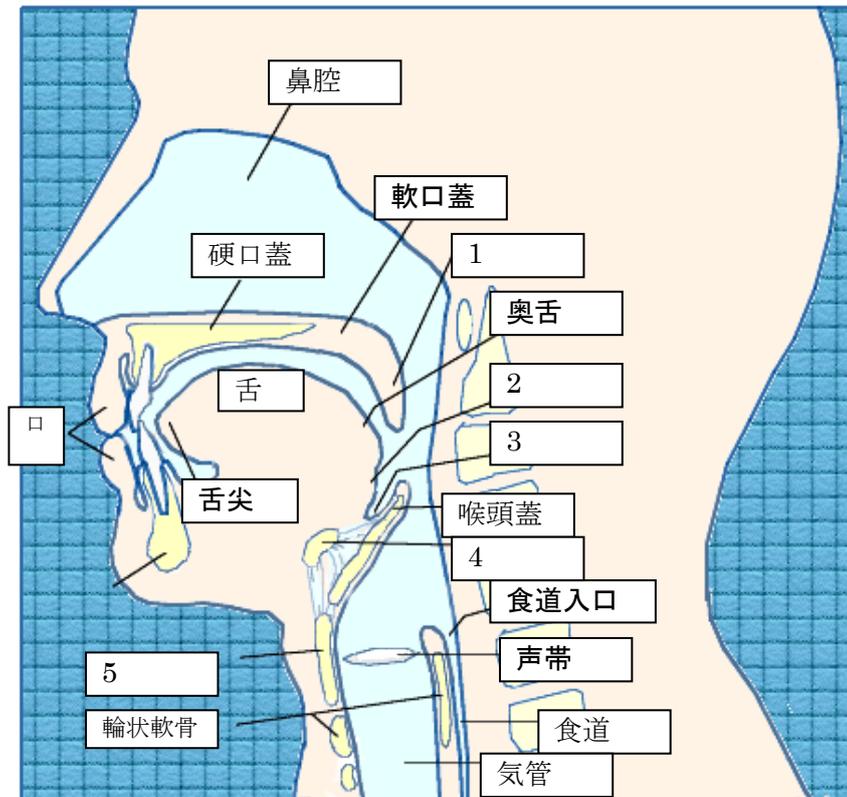
1 a.b.e 2 b.d.e 3 c.e 4 a.c.e 5 b.d

問 2. 次のうち外舌筋はどれか、正しい組み合わせを選びなさい

- a オトガイ舌筋
- b 茎突舌筋
- c 舌骨舌筋
- d 縦舌筋
- e 垂直舌筋

1 a.b.c 2 b.c.e 3 c.d.e 4 a.b.d 5 a.c.d

問 3. 以下の顔面矢状断の図譜の空欄を解剖学的名称で埋めなさい。



問題 C

問 4. 嚥下機能について誤っているものを選びなさい

1. 正常な口腔期では鼻咽腔が閉鎖される
2. 咽頭期障害ではむせの有無を観察する
3. 正常な咽頭期では舌骨が挙上する
4. 口腔期障害では舌機能が問題となる
5. 正常な咽頭期は喉頭蓋が上方へ回転して始まる

問 5. 嚥下に関与する筋群について、誤っている組み合わせを選びなさい

1. 輪状咽頭筋 —— 三叉神経
2. オトガイ舌骨筋 —— 舌下神経
3. 上咽頭収縮筋 —— 迷走神経
4. 側頭筋 —— 三叉神経
5. 口輪筋 —— 顔面神経

問 6. 舌について誤っているものを選びなさい

1. 舌根とは舌の付け根で、舌後半1/3の部分である
2. 舌体とは舌前方2/3の部分で、味覚や舌触りを感じる
3. 捕食された食物を臼歯の上に運び保持する
4. 口裂を閉じて、食物が口腔外へ漏れるのを防ぐ
5. 複雑な構音に寄与する

問 7. 嚥下に関連する脳神経のうち関係のないものを一つ選べ

1. 舌下神経
2. 迷走神経
3. 三叉神経
4. 舌咽神経
5. 滑車神経

問 8. 開口時に直視できないのはどこか。

1. 舌根
2. 上咽頭
3. 舌背
4. 口蓋垂
5. 歯肉

問題 C

問 9. 嚥下障害への悪影響が最も少ない薬剤はどれか

1. 向精神病薬(メジャーランキライザー)
2. 抗痙攣薬
3. ACE阻害薬
4. 筋弛緩薬
5. 頻尿改善薬

問 10. 不顕性誤嚥を疑う症状として不適切なものを選びなさい

1. 食事摂取に時間がかかるようになった
2. 一度に頬張って食べるようになった
3. 痰がからんだような咳をすることが多くなった
4. 食事量が減ってきたり、体重が減ってきた
5. 最近何度か肺炎で入退院を繰り返した

問 11. 脳血管障害による嚥下障害で正しくないものを選びなさい

1. 延髄など脳幹病変の場合は高率に嚥下障害をきたす
2. 両側大脳基底核に病変を認めた場合、嚥下障害をきたしやすい
3. 深部白質病変では舌の協調運動障害によって嚥下障害をきたす
4. 一側性の脳血管障害では、嚥下障害はみられない
5. 中脳から延髄までの病変では上下肢の麻痺と反対側の脳神経麻痺がみられることがある

問 12. 嚥下機能障害に最も関連が深いとされる理学所見はどれか選びなさい

1. マイヤーソン徴候陰性
2. 人形の目現象陽性
3. 吸引反射(吸てつ反射)陰性
4. アキレス腱反射陽性
5. 軟口蓋反射陰性

問 13. 誤嚥に対する処置で誤っているものはどれか

1. 食物の粘度を調整する
2. 喉頭全摘を行う
3. 喉頭挙上を図る
4. 声門閉鎖を行う
5. 嚥下姿勢を修正する

問題 C

問 14. 高齢者嚥下障害の特徴はどれか、正しい組み合わせを選びなさい

- a. 女性に多い
- b. 咽頭残留が多い
- c. 不顕性誤嚥が多い
- d. 安静時の喉頭の位置が低位である
- e. 口腔期障害は軽度である

- 1. a ,b, c
- 2. a, b, e
- 3. a, d, e
- 4. b, c, d
- 5. c, d, e

問 15. 以下は嚥下障害を疑う臨床所見について述べてある。文章をよく読んで、嚥下障害とは直接には関係が無いと思われる病態の組み合わせを選びなさい

- a 口唇からうまく取り込めない，流涎がある，口唇から食物がこぼれる
- b 血清Albminが低下する
- c 話が聞き取りにくい，声が鼻に抜ける，水分や食べ物が鼻から出てくる，声がかすれる
- d 呼吸数が増加する。
- e 飲み込めるが喉に残る，食道が開かない
- f 痰が出せない，咳がうまく出来ない

- 1 a.c 2 b.d 3 c.e 4 d.e 5 e.f

問 16. 下記の記述の中から正しい組合せを選びなさい

- a 嚥下運動は3段階に分けることができる.
- b 嚥下運動の第1相は不随意期である.
- c 正常嚥下の第2相は約2秒で終わる.
- d 嚥下障害は動的障害と静的障害とに分けられる.
- e 嚥下の第1相の障害は第2相にも影響を及ぼす.

- 1 a.b.c 2 a.d.e 3 b.c.e 4 b.d.e 5 c.d.e

問題 C

問 17. 摂食嚥下過程の5期を順に記載しなさい

1. 第1期 () 又は ()
2. 第2期 () 又は ()
3. 第3期 ()
4. 第4期 ()
5. 第5期 ()

問 18. 嚥下についての記述で、正しいものを選びなさい

1. 口腔内の食塊は反射運動で咽頭へ送られる
2. 軟口蓋が拳上すると咽頭と鼻腔の通路が開く
3. 食道期の食塊移動は蠕動運動によって送られる
4. 食塊が食道に入る時期に呼吸が促進される
5. 喉頭蓋が引き上げられて気道が閉鎖される

問 19. 老化に伴う嚥下機能低下の原因として誤っているものを選びなさい

1. 唾液の性状・量の変化
2. 味覚の変化
3. 注意力の向上
4. 喉頭が下降し、嚥下反射時に喉頭拳上距離が大きくなる
5. 無症候性の脳梗塞の存在

問 20. 嚥下後の下咽頭の食塊残留が示唆するものはどれか選びなさい

1. 咽頭期誤嚥の惹起不全
2. 喉頭蓋の倒れ込み障害
3. 食道入口部の狭窄
4. 食塊が喉頭から気管に入る前駆症状
5. 正常な老化現象

問 21. 正常嚥下時に認められないのはどれか選びなさい

1. 食塊形成
2. 鼻咽腔閉鎖
3. 喉頭拳上
4. 喉頭閉鎖
5. 胸腔内圧上昇

問題 D

問 1. 以下の訓練と対象となる症状で、誤っている組み合わせを1つ選びなさい

1. 口唇・舌・頬などの運動 —— 食物が口からこぼれる
2. ブローイング —— 鼻咽腔閉鎖不全
3. pushing exercise —— 声門閉鎖不全
4. 複数回嚥下 —— 口腔・咽頭残留
5. PLP —— 認知症

問 2. VFとVEについて誤っているものを1つ選びなさい

1. VEでは嚥下の瞬間が見えない。
2. VEでは咀嚼・食塊形成の様子を見ることができる
3. VEは声門閉鎖の様子を見ることができる
4. VFでは輪状咽頭筋機能不全がVEよりもわかりやすい
5. VFは被爆する

問 3. 間接訓練でないものはどれか選びなさい

- a 体幹機能向上訓練
- b 嚥下おでこ体操
- c 体幹角度調整
- d 嚥下の意識下
- e ブローイング訓練

1.a b 2.a e 3.b c 4.c d 5.d e

問 4. 摂食・嚥下リハビリテーションについて誤っているものを選びなさい

1. 摂食・嚥下リハビリテーションと並行して取り組むべきことには口腔ケアの徹底、栄養状態を改善させること、離床を進めることがあげられる。
2. 食道入口部開大不全に対し、バルーン拡張法は有効である
3. 適切な摂食・嚥下リハビリテーションを行うためには、機能評価が重要である
4. 先行期障害の対応には、病態の見極めはあまり重要でない
5. 臥床状態が続くと喉頭挙上障害を来すことがある

問題 D

- 問 5 吹く動作(口腔気流)により鼻咽腔閉鎖に関わる神経・筋群の活性化が促進される。(対象者は鼻咽腔閉鎖不全により水分、食物が鼻腔逆流する患者)この訓練は以下のどれを説明したものか？
1. シャキア・エクササイズ
 2. ブローイング訓練
 3. プッシング・プリング訓練
 4. メンデルソン手技
 5. バンゲード法
- 問 6. 在宅診療で嚥下機能を評価する際に行われる検査を2つ選びなさい
1. Saxonテスト
 2. 嚥下造影検査
 3. スパイロメトリ
 4. 改定水飲みテスト
 5. 反復唾液嚥下テスト
- 問 7. 嚥下障害患者に対する機能評価テストで用いられる検査法のうち感度・特異度ともに最も高いものは次の検査法のうちどれか？
1. 改定水飲みテスト
 2. フードテスト
 3. 反復唾液嚥下テスト
 4. 100mL水飲みテスト
 5. 頸部聴診法
- 問 8. 嚥下造影検査について正しいのはどれか
1. 誤嚥の危険性が高い患者には高浸透圧の造影剤を用いる
 2. ベッドサイドでも施行可能である
 3. 嚥下咽頭期の観察が可能である
 4. 総義歯では外して検査を行う
 5. 入院が必要である
- 問 9. 嚥下訓練におけるアイスマッサージ法の目的はどれか
1. 咽頭の収縮
 2. 咽頭期嚥下の誘発
 3. 輪状咽頭筋の弛緩
 4. 喉頭の閉鎖
 5. 鼻咽腔の閉鎖

問題 D

問 10. 下顎を下方に引く嚥下訓練の目的として正しい組み合わせを選びなさい

- a. 喉頭挙上力の改善
- b. 咽頭収縮力の改善
- c. 気道の防御
- d. 舌根の牽引
- e. 食道入口部の収縮

- 1. a, b
- 2. a, e
- 3. b, c
- 4. c, d
- 5. d, e

問 11. 嚥下訓練開始の条件で誤っているものはどれか

- 1. むせを訴えなければ開始する
- 2. 意識が清明である
- 3. 意志の疎通が図れる
- 4. 口から食べたいという意欲がある
- 5. 自力で空咳ができる

問 12. 嚥下訓練で正しい組み合わせはどれか

- 1. /t/, /d/の構音訓練……舌による食塊移送
- 2. pusing exercise……呼吸と嚥下のリズム
- 3. /k/, /g/の構音訓練……声門閉鎖
- 4. 顎引き嚥下……口腔内圧保持
- 5. 息こらえ嚥下……相対的喉頭挙上

問題 E

- 問 1. **食事介助に関する次の記述のうち、誤っているものを選びなさい**
1. 刻み食が必要な場合でも、刻む前の食べ物の状態を見てもらう
 2. 食事の前後には、義歯の有無を確認する
 3. 片麻痺のある人には、口の健側にスプーンを入れる
 4. 一口ごとに、口の中に食べ物が残っていないか確認する
 5. 嚥下体操は食後に行うと誤嚥予防に効果がある
- 問 2. **摂食嚥下状態を考慮した低栄養改善の調理方法として、正しいものを選びなさい**
1. 消化吸収をよくするために食材を小さく刻んだ方がよい
 2. マヨネーズはカロリーが高いので使用しない方がよい
 3. 水分のとりみはできるだけしっかりつけた方がよい
 4. 刺激が強いので香りのしない料理が望ましい
 5. 油脂を上手に利用するとよい
- 問 3. **食事中の安定した姿勢保持について、誤りを選びなさい**
1. 箸を持たない方の手は、テーブルの上に乗せると座位が安定し易い
 2. 頸部は軽度屈曲するよう枕等で調整する
 3. 車椅子に座って食事する際は、きちんと床に足を着けるようにする
 4. ベッドでの食事の際は、膝は曲げ、ずり落ちにくくする為大きめの枕等を膝下に入れる
 5. 背中が倒れるときは、背中にタオル等を入れ軽度後傾するようにする。
- 問 4. **食事介助の際の観察ポイントで、誤嚥や咽頭残留を疑わせる所見として間違っているものを選びなさい**
1. 声の変化
 2. 咽頭ゴロ音
 3. ムセ・咳
 4. 口腔貯留
 5. SpO₂の低下
- 問 5. **口腔の動きが悪いため、食事に時間がかかる場合の対処法として間違っているものを選びなさい**
1. 一口量を多くする
 2. しっかりした味付けにする
 3. ミキサー食にする
 4. 食事の温度差をはっきりさせる
 5. 好みの味付けにする

問題 E

- 問 6. 早食いや丸飲み傾向がある場合の対象法として間違っているものを選びなさい
1. 咀嚼が必要な食事形態にする
 2. 少量ずつ盛り付ける
 3. ボール部が小さいスプーンを使用する
 4. 食事に集中出来るよう、声掛けはしない
 5. 小鉢に取り分ける
- 問 7. ゼラチンゼリーの特徴として正しいものを選びなさい
1. 滑らか
 2. 変形しにくい
 3. 30℃以上で溶解する
 4. 室温での管理が容易
 5. 加熱処理は不必要
- 問 8. 咽頭期に障害がある場合の食事介助のポイントとして間違っているものを選びなさい
1. 滑りが良い食事形態の選択
 2. 一口量を多くする
 3. 複数回嚥下を促す
 4. 喉頭マイクを使用する
 5. パルスオキシメーターを使用する
- 問 9. 口腔ケアについて誤っているものはどれか選びなさい
1. 二次感染の予防
 2. 食物摂取量の確保
 3. 唾液量の維持
 4. 味覚の確保
 5. 口の審美性の維持
- 問 10. 口腔ケアについて、適切でないものを選びなさい
1. 口腔内の清掃は、化学的清掃法より機械的清掃法が効果的である
 2. 口腔ケアの目的は、口腔機能の保持により、QOLとADLの維持・向上を図ることである
 3. 総義歯を装着している場合、歯がなくても口腔ケアは必要である
 4. 経管栄養の場合、唾液分泌の減少による自浄作用の低下のため、口腔内は不衛生になりやすい
 5. 高齢者は歯と歯の隙間が大きくなるので、むし歯や歯周病になりにくい

問題 E

問 11. 経鼻経管栄養を行っている高齢者の口腔ケアについて、最も適切なものを選びなさい

1. 口腔ケアは不要である
2. スポンジブラシは、したたるほど水を含ませて使用する
3. 経管栄養が終わってすぐの口腔ケアは避ける
4. 口腔ケアを始める時に固定テープがはがれていたら、留め直す
5. 仰臥位で行う

問 12. 高齢者の口腔ケアの目的として、間違っているものを選びなさい

1. 唾液分泌の抑制
2. 口臭の改善
3. 誤嚥性肺炎の予防
4. 歯周病の予防
5. 食欲の増進

記述問題

以下のA, B, Cの各問いから2問を選択して説明をなさい。

- A. オーラルフレイルとは何か？その概念を説明し、かつフレイルの評価方法について説明せよ。

- B. 口腔乾燥症とそれを引き起こす可能性のある原因について述べよ

- C. 摂食・嚥下の最初の二期{口腔準備期、口腔期(嚥下第一相)}における口蓋帆(軟口蓋)の役割について説明せよ。